



国体の記憶 21

静寂を打ち破る会心の音

このコーナーに登場してくれる人を募集します。
くわしくは広報課(☎20-15003)へ。

「シュツッ…パーン」
的を射た会心の音が、静寂を打ち破った。

—高校3年で出場した福井国体。千葉県代表として、弓道で優勝を飾る。

決勝前は、あいにくのどしゃ降りだった。満足に練習ができないまま、本番を迎えてしまう。しかし、気持ちは意外にも落ち着いていたという。

「決勝直前に控室でボランテニアの女性が入れてくれたお茶が、心を落ち着けてくれました。監督の林先生は試合中も気が気でなかったようで、試合後、満面の笑みで迎えてくれたときとのギャップが、今も思い出されます」

国体へ出発する前、エールと校歌斉唱で全校生徒1、500人から見送られたことが、記憶に残っている。

「あまりの感動に、背中がゾクゾクッとしました。同時に、絶対にみんなの期待に立ててやると決意しましたね」
福井では、民家に宿泊。

「ご主人がいい人だね。料理屋に連れて行ってくれて、好きなもの食べていざ、と。時効ですが、泡の飲み物も少々いただきました(笑)」



国鉄成田駅で関係者らに歓迎される篠田さん(左から2番目)

現地での温かいもてなしが、今も忘れられない。

それから5年後の若潮国体(千葉)では、競技役員として国体にかかわる。選手として、また競技役員として、いろいろな場面に遭遇してきた。だからこそ、ゆめ半島千葉国体の出場選手たちに、こうエールを送る。

「勝負のうえで大事なものは、今の自分に自信を持つこと。やっぱり、練習は嘘をつかないよ」

この6月で定年だが、今年に数回は弓を射る。

「現役時代は、4射中3射的に当てていましたが、今はその半分くらいしか…でも、定年後は、また真剣に弓道と向き合いたいと思っています。あの会心の音を、もう一度」

福井国体から42年。優勝の喜びを分かち合ったメンバーとの再会を、楽しみにしている。

「彼らと、ビールを飲みながら、じっくりと昔話をしたいですね」

編集後記

相変わらずテレビで人気の法律番組。世の中のいざこざを面白おかしく解説するのが視聴者に受けるようです。そこでよく取り上げられるのが樹木をめぐるトラブル。では問題です。「隣地からこちらの敷地内に伸びた枝は勝手に切ってよい」。答えは×、切れません。そんなわけで、草木が一番成長する今の時期、本紙では「樹木の管理」や「墓地の清掃」に関する記事で「草木所有者」に適正な管理を呼び掛けています。とはいつてもこの種の問題、法律通りに対処したら紛争だらけに。「適正管理」で世の中ま〜るく収めたいものです。



成田市役所本庁舎(行政棟、議会棟、消防本部、成田消防署)はISO14001の認証登録を受けています。



篠田 貞夫さん(新妻)

新妻出身。成田高校入学後、弓道を始める。3年のとき、福井国体で優勝。卒業後も、年に数回は弓を射る

